

2016WORLD ROWING SENIOR, U23 & U19 CHAMPIONSHIPS REPORT 8 (8/22)

大会2日目、各クルー、カテゴリー別に朝食をとりました。

昨日ほどではないものの、風雨のあるなか、昨日の予選で準決勝・準々決勝に進んだU23の3クルーが早朝トレーニングを行いました。本日はU23カテゴリー3クルーの敗者復活戦及びシニアクルーの予選が行われました。本日レースが無いクルーは早朝と昼の時間帯にそれぞれトレーニングを行いました。



左上：BLW1x高島選手（明治大学）、中上：BLM4-クルー左から志賀選手（日本大学）、福井選手（東レ滋賀）、荒川選手（一橋大学）、佐藤選手（日本大学）、右上：BLM1x古米選手（日本大学）、左中：JW1x大門選手（日田林工高校）、中央：早朝のコース、右中：JM4x左から河畑選手（美方高校）、石塚選手（田村高校）、江島選手（青井高校）、吉田選手（加茂高校）、左下：JW4x左から四方選手（朱雀高校）、宇都宮選手（今治西高校）、河原選手（若狭東高校）、松井選手（今治西高校）、中下：JW2x左から國元選手（唐津商業高校）、新田選手（美方高校）、右下：JM2x左から遠山選手、瀬戸選手

10:25 BLM2- 敗者復活戦

天候がなかなか回復しない中、本日より一番手のBLM2-クルーの出番となりました。ストロークの林選手（日本大学）は昨年のU23世界選手権5位、ユニバーシアード優勝メンバーだけに、日本代表チームに勢いを与えてくれるレースが期待されます。

スタートからドイツが飛び出し、チェコ、デンマーク、オーストリア、日本、オランダの順に追う展開になりました。日本クルーは500mを5位で通過。準決勝進出ラインの3位デンマークとは1.48秒差。レースの流れにはついていっています。第二クォーターに入るとストロークの林選手のスムーズなリズムが冴え渡り4位オーストリアをかわします。デンマークにかわされたチェコにも迫る勢いです。第3クォーター、粘るチェコとの激しい争いが続くが日本はスムーズさを失わずじりじりとチェコを追い詰める。会場でも日本クルーを紹介し、「林が来るはずだ」「林と嶋田の日本が追い上げてきている」と放送されていました。1500mではチェコに0.25秒差とわずかながらも前に出て3位で通過。5位オーストリアも粘って日本から1.42秒差でついてくる。第4クォーターは3カ国による激しい3位争いになると思われたが、日本がチェコとオーストリアの希望を断ち切る激しいスパートをみせ、トップにも迫る勢いのままゴール。準決勝進出を決めた。



2016 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS
START LIST - HEAT 3

1	JPN	SHIMADA/HAYASHI
2	CAN	GRAY/ASHWOOD
3	CHN	DONG/ZHU
4	NED	TIJDINK/VAN BRUSSEL
5	ITA	GIACOSA/CAPPELLI

ROTTERDAM, NETHERLANDS



左上：スタートリスト、右上・下：終盤、猛烈な追い上げを見せるBLM2-クルー（林選手、嶋田選手（ともに日本大学））

10:35 BLW2x 敗者復活戦

3位までが準決勝に進出するレース。序盤からカナダ、デンマークをポーランド、日本ハンガリーがほぼ横一線で追う。日本は準決勝進出ラインの3位の座を争う展開となった。500mを4位で通過するも3位ポーランドとは1.18秒差。その日本に続いてハンガリーが0.28秒差で続く。第2クォーターでも日本は積極的に仕掛け5位ハンガリーとともに3位ポーランドとの差をじりじりと詰める。先が読めないレース展開に持ち込んでいった。第3クォーターに入るとハンガリーが仕掛けてきた。日本とポーランドが激しく競り合っている間をすると抜け3位に順位を上げた。日本はハンガリーにかわされ5位に順位を下げるが、3位ハンガリーとはわずか1.73秒差。ラストクォーターに全てをかけることになった。ラストクォーターでは、ハンガリー、ポーランド、日本が激しく競り合いながら上位との差を詰めていく。ゴール直前まで混戦となり、そのままゴール。手に汗握るレースに決着が着いた。日本は残念ながら5位となり、準決勝に駒を進めることは出来なかった。成瀬選手（明治大学）、角谷選手（立教大学）の頑張りは日本チームに大きな力を与えてくれた。



上：スタートリスト

左下・右下：終盤、大接戦を演じるBLW2xクルー（成瀬選手（明治大学）、角谷選手（立教大学））



10:40 BLM2x 敗者復活戦

スタートから飛び出した南アフリカ、中国、ベルギー、チェコを日本が追う展開に。500mを5位で通過するも、2位から5位はほぼ横一線である。第2クォーターで少しでも前に出ようと賢明に漕ぎ続けるが、準決勝進出ラインの2位を行く中国との差は徐々に開いていった。1000mの通過も順位は変わらず5位。第3クォーターに入ると、ここまで幾度と無くしかけてきた影響が見え始め、苦しい展開に追い込まれていった。準決勝進出ラインの2位との差は1500m通過の時点で7.33秒差。第4クォーター、各国が一斉にペースを上げる中、日本はうまく反応できず5位のままゴール。準決勝進出を逃した。

上：スタートリスト

左下：大接戦を報じる電光掲示

右下：BLM2x（古田選手（明治大学）、武田選手（関西電力美浜））



16:35 LM1x 予選

ここからシニアチームのレースが始まることになった。先陣を切るのはLW1xの上野選手（明治安田生命）。晴れ間が見えてきて天候は回復するかに見えたが、風の勢いが増し、非常に難しいコンディションとなった。スタートから激しい風に見舞われ出遅れる苦しい展開となり500mをトップから8.91秒差の6位で通過。第2クォーターで巻き返しを図りたいが思うようには詰まらず1000mの通過ではトップとの差はさらに開き15.18秒差になってしまった。しかし、どんな状況でも日本はあきらめないレースを展開していく。先行するエルサルバドルを第3クォーターで捕まえ5位に浮上するとそのまま引き離し、さらに前を行くオーストラリアとの差を詰めていく。第4クォーターも激しいコンディションの中必死にオーストラリアを追うがゴールまでにとらえることはできずに5位のままゴール。敗者復活に回ることになったが、今回のしぶといレースは必ず今後につながるだろう。



船台へ向かうLW1x 上野選手（明治安田生命）

大荒れのコンディションのなか、追い上げるLW1x 上野選手（明治安田生命）



17:05 LM1x 予選

荒れたコンディションの中、日本代表チームのリーダー的存在のLM1x池田選手（トヨタ紡織）が登場。スタートから飛び出すとそのまま良いポジションをキープし、レースをリードする状態となった。300m過ぎからアイルランドが並びかけてきたが落ち着いたストロークを重ね500mはトップのアイルランドとほぼ並ぶように2位で通過。第2クォーターではアイルランドが伸び始めるが日本は落ち着いて好位置をキープ。そのままうまく波に乗り、4位までが準々決勝に通過するところを2位で通過を決め、日本チームに勢いを与えた。



2016 WORLD ROWING CHAMPIONSHIP

STANDING 1500M

	IRL Paul O'DONOVAN	5:20.06
	JPN Yuki IKEDA	+3.70
	SRB Milos STANOJEVIC	+7.86
	CHN Jiajian LIU	+11.21
	NED Bart LUKKES	+11.65

ROTTERDAM, NETHERLANDS

上：1500m通過順位を知らせる電光掲示

下：大荒れのコンディションのなか、トップを追いつけるLM1x 池田選手（トヨタ紡織）



17:20 LM2- 予選

スタートからぐんぐんとスピードに乗りレースをリードする。500mを2位デンマークに2.07秒差をつけトップで通過し、そのまま行くかに見えた。800m付近から徐々に後続に差を詰められ始め1000mではデンマークにかわされブラジルと並んで2位で通過。そのままスピードを取り戻すことができずに1500mを5位で通過するとハンガリーにもかわされ6位に後退しそのままゴール。明日の敗者復活に回るようになった。積極的なレース展開をすることはできたので、次につなげていきたい。



上：蹴りだすLM2-クルー（奈良選手（新日鐵住金）、小林選手（戸田中央総合病院RC））



U23カテゴリーに続きシニアカテゴリーもレースが始まり大会もさらに盛り上がりを見せてきました。明日もシニアの敗者復活やU23の準決勝など重要なレースが目白押しですが、日本代表チーム一丸となって戦って参りますので応援よろしくお願いいたします。